

注目の環境都市とライフスタイル新ビジネス

松本大地／商い創造研究所代表取締役

マーチャンダイジング、店舗開発、販売手法、ディスプレイなど多くの要素を絡ませながら知恵と工夫によって新たな売り方を作るのが業態開発。小売り・流通業では事業の生命線となる。本稿で伝えてきた米国オレゴン州ポートランドが時代をリードする業態開発の宝庫であるゆえんについて述べてみたい。

日常のハレ空間を演出

ポートランドの多くが日常生活シーンの中の小さな喜びや感動を生み出す日常のハレ空間で、そのライフスタイルを知るほどに時代のニーズが見えてくる。環境に配慮した良質なライフスタイルは、自転車通勤や電気自動車の推進や地産地消の食文化が定着し、全米で最も住みやすい都市、環境に優しい都市、持続可能な都市との高い評価を得ている。

全世界に広がったカーシェアリングはポートランドのZIPカーが発祥で、清涼飲料水の缶、瓶やペットボトルなどの容器リサイクルを最初に始めたのもオレゴン州、またハイブリッドカーの所有率も全米1位とサステイナブルな暮らし方がない。街に共感する住人の日常のライフスタイルからは、様々な業態が生まれる。



カフェとワークスタイルの心地良い関係性



デザイン力で再生したホテルモデラ

自転車は、通勤・通学に利用する日常生活に溶け込んだ移動手段で、健康促進や仲間とのツ

ーリングを楽しむ大切なライフスタイル・アイテムでもある。12年には自転車通勤者の割合で全米都市1位に選出。そんな背景から自転車とテーマにした業態は続々と誕生し、自転車ショップだけでなくファッションや飲食店などの業種へと波及。ポートランドの暮らしがよりよ

Study Room

無理せず人まねをせず楽しむ

方には終え、アウトドアを楽しむんだら仲間と繰り出したり、家庭でのリラックスマな時間を大切に、時間を有効に使うことで生活の質が高まる。ポートランドで勤務する日本人の友人は、「日本と違い上司にペコペコしない、無駄な付き合い残業のよらなことはない」とワークライフバランスの良さを語る。安らぐ会話とおいしいコーヒーでスタートする日常のハレ空間は働き方でも変えていく。

デザインでよみがえる

デザインとライフスタイルは切っても切り離せない関係性があり、新業態開発へとつながる。今秋のポートランド視察では複数のホテルに宿泊したのも、ホテルの存在がライフスタイルづくりと相関関係があるからだ。「ホテルモデラ」はグリーンウォールのエントランスが目をひき、500点以上の地元アーティストの作品が館内展示されたモダンなブティックホテル。前身は1982年建築のデザインという廉価なホテル。8年前に宿泊した際はもうごりごりといった印象だったが、デザインの方で見事によみがえり人気のブティックホテルとなった。担当したジェフ・スチュア氏はモデラの他、都市再開発で話題のパール地区でもエコトラストビルやコンドミニアムなど様々な案件の設計に取り組む新進気鋭の建築デザイナー。取材中、「リソースを生かすデザイン」という言葉を繰り返した。「ジュビターホテル」は中心部から車で5分の立地にあり、前身は50年代建築のチープなモデラ。建物のレイアウトは当時の残り香があるが、デザインの力でブティックホテルに変身。ライブハウスやスタイリッシュ

なバーと、サステイナブルなグリーン環境とが同居、周辺にもライブハウスやレストランも集まりだした。街なかの「エースホテル」はすでにポートランドのランドマーク。ここに泊まるのが街を訪れる目的になるケースも見受けられる。上述の三つのホテルの特徴は、見えないの高級感がないこと、ローカルなファニチャーなど備品やリサイクル品を生かした個性があること、ロビーに人が交わる心地良さを提供していること。旧来のホテルにデザインとライフスタイルを注ぐことで新業態、新ビジネスが誕生する。

自転車、ホテル、レストラン、ファーマーズマーケット、アウトドアなど多くの日常のモノやコトに新業態ができるのは、ポートランドの視点で新しい商品開発や組み合わせをしつつ、無理をしない、人まねをしない、そして自らが楽しむことが前提にある。プータンの住人は「足るを知る」思考で幸福度が高いが、ポートランドは日常の中で楽しみを作ることで幸福度が高い。知恵と工夫によって新たな売り方を提案する。その業態開発力は、時代と共に生きる小売り・流通業には必須である。

まつもと・だいち SC
マーケティング、ブランドニングから業態開発、プロデュース業務を推進。専門誌や業界紙での連載やFM番組のパーソナリティーの他、大学のマーケティング講義やIFEビジネススクールでは次世代商業施設戦略講座を担当する。『最高の商いをデザインする方法』(エクスマレッジ社)刊行。